



小田小だより

平成29年12月号

〒236-0052 横浜市金沢区富岡西1丁目69番1号 Tel 045(775)3011

<http://www-local.edu.city.yokohama.jp/sch/es/koda/>

横浜市立小田小学校

街灯のポールに張られた一枚のお礼状 ～豊かな心に思いを寄せて～

学校長 木村 昭雄

12月になり小田小学校の校庭の木々も葉を落とし始めました。風にも肌を刺すような冷たさを感じます。何年か前にもご紹介いたしました、この季節に今を盛りに花を咲かせている一本の桜の木があります。12月に桜の花？確かに桜の花！正門を入れて昇降口に向かう小道沿いにあるたった一本の桜の幹には「ジュウガツザクラ（十月桜）」の表示があります。春に咲く桜より小ぶりですが、それはそれは可憐で美しく、見る者の心をほっと和ませます。個人面談等でご来校の折りに見ていただければ幸いです。

寒さに身を縮めがちな季節に、心がほんのり温くなる出来事をご紹介します。今年の7月中旬の暑い朝、東戸塚駅前のバス停で降りて歩き始めると、何人もの人が集まって何かを探していました。傍らにいた男性に「何を探しているのですか？」と尋ねると、「コンタクトレンズを落とした人がいるそうで、それを探しています。」という。そこには通勤客とおぼしき人、十数名が探していたのです。私も時間が有ったのでみんなが探している辺りを注意深く見続けました。やがて、「ありました。」という声が聞こえました。その声の主は男子高校生で「皆さん、有難うございます。」と頭を深々と下げていました。探していた人たちは、「よかった。よかった。」とその男子高校生に言いながら駅の改札口に向かって行きました。次の日の朝、みんなが集まって探していた辺りを通りました。すると、その近くの街灯のポールに「ご協力くださった皆様へ。7月〇日朝、コンタクトレンズを探していただき、ありがとうございました。皆様のご協力に心から感謝し、お礼申し上げます。〇〇」の張り紙を見つけました。さらに、その日の夜、帰宅途中に再度その張り紙を目にしました。その張り紙には二人の方が「この張り紙、すてきです。」「見つかってよかったですね。」とのメッセージが書き加えられていました。その張り紙の主の男子高校生と、一緒にさがしてくださった皆さん、加筆した二人の方の優しさが今でも心に残っています。

この出来事に関わった方々に、「豊かな心」の姿を見ることができます。その姿とは、人の困り感を自分のこととして受け止めている姿であり、人の喜びも自分のこととして、共に喜ぶ姿です。このような姿こそが「豊かな心」の姿ではないかと思うのです。では、「豊かな心」はどのようにすれば育つのでしょうか。「豊かな心」を言葉で教えるには無理があります。もともと心は言葉で育つのではなく、体験によって育まれるものだからです。

桜という木は不思議な木です。初夏になり青葉に覆われれば、それ以後は何の木かさえ忘れ去られているのですが、野山を桜色に染める満開の時期には、これほど人目を引き、その美しさで人々の心を奪う木は他にはありません。おそらく長い冬を乗り越え、春の訪れを感じさせて一瞬のうちに去っていく「儚（はかな）さ」に、人々は美しさを感じているからでしょう。私たち大人は、美しい心をこのようにして育ててきたのです。同じように、嬉しいという心は、嬉しさを経験することによって育ててきたのです。

心を見ることはできません。「豊かな心」もしかりですが、心は振る舞いを通して表れてきます。振る舞いの中に心が見えるのですから・・・

家族で過ごす時間が多くなる冬休みです。年末年始のお手伝いをきっかけに、毎日一緒に食事の配膳や下膳をする、庭を掃く、玄関の靴を揃えるなど、子どもたちに家族の一員としての仕事に取り組みさせるのはどうでしょう。小さなことでも一ヶ月続ければ、きっと優しさという「豊かな心」が育つことでしょう。

保護者の皆様、地域の皆様、どうかよいお年をお迎えください。